

平成26年度 学校自己評価システムシート（県立南稜高等学校）

3月23日作成

目指す学校像	明るく伸びやかな校風のもと、生徒たちが豊かな心を育み、高い目標に向かって意欲的に活動する学校を目指します。
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業、家庭学習を中心とした学習活動の充実と3年間を通じた学力の向上 2. 学校行事や部活動などを通じて自律的、意欲的に行動できる生徒の育成 3. 一人ひとりの進路の充実と進路実現を通じた成長の最大化 4. 家庭・地域とのコミュニケーション深化と、家庭教育との連携強化
------	---

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	26名
	事務局（教職員）	15名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					学校関係者評価		
年度目標				年度評価（2月1日現在）			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習が習慣化している生徒がいる一方で、平日の家庭学習時間が少ない生徒も多い 授業満足度は継続して改善傾向 文科省委託英語力強化事業、年次研修などで公開授業、研究授業の機会が増えている 教科指導に関する外部研修等への参加は定着している。研修成果の共有と有効活用が課題である 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の予習・復習を含めた家庭学習習慣の確立と継続的な学力の向上 外部研修等の有効活用と研究授業等の機会を活用した授業改善の取り組み、教員間の連携 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科で授業内容・家庭学習対策について共通理解を図り計画的な指導にあたる。 各学年や学校全体で教科の取組を共有し自らが学力向上に取り組む姿勢を育てる。 教科会や職員研修会を英語力強化事業・年次研修等の研究授業と連携し、各自年1回の授業公開を実施し授業改善の継続に努める。 県教委や予備校等の外部機関の研究会・研修会の成果を活用して生徒に還元する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活アンケートの家庭学習状況・授業満足度、対前年度比較 各自年1回の授業公開の実施と研究授業・公開授業を活用した授業改善の取り組み状況 校外の研修会等への参加とそのフィードバックの状況 	<ul style="list-style-type: none"> 学力向上のために教科・学年で家庭学習を意識した取組が行われた。授業満足度は引き続き高く推移したが、家庭学習時間は芳しくない状況が続いている。 年2回の授業公開週間を活用し、教科研修の機会を持ち、各自が授業改善に取り組んだ。 外部機関研修会等の情報を教科や分掌で共有し、進学指導・キャリア教育に活用した。 	B A	<ul style="list-style-type: none"> より多くの生徒が家庭学習習慣を確立するために、授業改善・家庭学習対策に継続して取り組む。 年2回の公開週間を中心に、教科研修の充実と教員間の相互理解に努め、授業改善を図る。 新しい情報の共有を意識して、引き続き外部機関の研修会等を有効に活用する。
2	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻や身だしなみなど基本的な生活習慣の改善が続いている。 自転車事故における防止指導及び、登・下校時のマナーの改善についての指導が必要である。 盗難発生件数の増加にともなう事前防止指導と発生時の迅速かつ的確な対応が必要である。 携帯電話やネット利用時間の増加と、それに関するトラブルが発生している。 部活動での活躍が増え、継続率が向上し、生徒の意欲も増している。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の定着。 生徒の事件や事故に関する防止と対応。 	<ul style="list-style-type: none"> 身だしなみ指導や遅刻防止指導を行う。 朝学習やチャイム着席の励行を促す。 事件や事故に関する学校側の未然の注意喚起や指導。 事件や事故発生時の職員・保護者・警察との迅速かつ的確な対応。 	<ul style="list-style-type: none"> 身だしなみの状況や遅刻者数の推移。 朝学習や授業が定刻通りに行われているか。 事件や事故に対する事前注意喚起や校外においての防止指導が行われているか。 事件や事故発生数の推移。 事件や事故発生時に迅速な対応や保護者や警察との連携がスムーズにできたか否か。 	<ul style="list-style-type: none"> 身だしなみや遅刻者数全般については更なる改善が見られたが、終盤にきてやや遅刻者が増加傾向にあった。これは朝学習の状況にも影響されている部分があると思われる。 事件や事故に対する指導全般については概ね目標通り行われたものの、大きな事故や盗難事件、ネット上の問題行動が起き、大事には至らなかったものの交通事故も頻発して起こった。 事件や事故発生時の対応や連携についてはスムーズに行われた。 	B B	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の定着については、生徒指導部を中心に全学年の教員が共通認識の下、学校全体で日常的に根気強く継続して指導していく必要がある。 事件や事故に関しては、未然に防ぐための注意喚起や指導とともに、発生時における迅速な対応を行うための校内管理体制や保護者や警察との連携が大きな課題となる。
3	<ul style="list-style-type: none"> 多様な進路希望の中、四大が5割越え、専門学校3割弱の傾向継続 一般入試・センター利用入試による受験が一層増加し、最後まで諦めずに受験に向う姿勢の生徒や、公務員を目指して早期から準備する生徒が増加 将来を見据えての堅実な進路志向は増えてきたが、選択範囲にはまだ拡大の余地があり、進路意識の育成・開拓のための計画的指導が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 学問研究分野への興味や資格・技術取得等を見据えた進路選択、目指す進路実現への継続的努力をサポートする体制の促進 多様な進路希望対応のきめ細かい指導や情報提供、進路意識の向上を促す学習・行事の計画的推進 	<ul style="list-style-type: none"> 進路開拓意欲の喚起に繋がる各種情報の入手と効果的な発信、相談体制の充実。センター試験対応行事・セミナー・模試等の実施の一層の工夫 多様な進路に配慮する3年間を通じた段階的・系統的指導の推進、行事ごとの検証・精選のための情報交換と工夫改善、及び教員のスキルアップを目指す研修会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の相談申込みや資料室利用、資料貸出等の頻度。センター・一般入試の上位校受験希望状況、セミナーや模試受験参加度。公務員や専門学校受験姿勢状況 低学年からの進路意識向上喚起の把握に繋がる進路相談機会の状況。行事後の検証と工夫改善状況。教員の研修会内容活用度 	<ul style="list-style-type: none"> 目標を定めて早期から取り組む姿勢の生徒達の動き出しが早まり、資料利用や進路相談、論文添削や面接指導依頼等での来室が一層増加。公務員や専門学校希望者も難易度を上げてチャレンジする生徒増加。 学年毎の行事実施と終了後の検証を繰り返すことで、情報の共有と行事の有機的関連・改善は図られたが、低学年の生徒の進路相談状況は例年並み。進路意識向上と選択範囲には拡大の余地あり。 	A B	<ul style="list-style-type: none"> 多様な進路希望に対する効果的な情報・資料の取捨選択と時宜を得た発信方法模索と、低学年層進路室利用機会増加創出の工夫 受験指導の一層の組織化と、データ活用の推進 進路意識向上と実現に努力する姿勢の育成及び選択範囲拡大に繋がる計画的指導の構築へ向けての一層の工夫
4	<ul style="list-style-type: none"> 入学志願者数は高水準を維持 学校HPの閲覧数が1割強減少 関東高P連では防災教育の分科会を主催し成功させた。県高P連では進路指導に関する発表を行った 保護者の授業参観や大学見学などへの参加数は低調なままであった。PTAの役員以外の活動参加が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> 学校関係者や地域からの評価 PTA活動を含む学校活動への保護者の関与 	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価システムシートの内容についての職員の理解、共通認識をより徹底し、それを意識した取り組みを強化する PTA行事での保護者の役割の拡充を図る 一昨年度から拡充されている保護者の防災教育活動の取り組みを継続し、他の分野での新企画の検討や既存の活動の見直しを働きかけ活動を活性化させる 	<ul style="list-style-type: none"> 県の実施する第三者評価の結果 保護者アンケート、学校評議会・評価懇話会での評価 PTA活動を含む学校活動への保護者の参加状況（人数や役割）。特に授業参観や進路行事等 	<ul style="list-style-type: none"> 第三者評価においては重点目標達成に向けた取り組みが評価された。 入学志願者は大幅増(12月調査) 保護者アンケートでは満足度95%超の高水準を維持しているが、子供の学習状況等への心配が増えている。 PTA活動については防災、進路の取り組みが進んだ。 	A B	<ul style="list-style-type: none"> 重点目標達成のための施策をより焦点化、具体化する。 PTA活動への保護者の参加を本部役員→理事→一般会員へと広げる必要がある。 防災や交通事故等の防止の観点から地域との連携を深める

学校関係者からの意見・要望・評価等

・学校生活アンケートの中の、家庭学習をしない理由に、「何をやったらよいかかわからない」という回答があったが、これに対しては、学校側が見逃さず、応えてあげるべきである。
 ・家庭学習時間には、塾や図書館等で自習をした時の時間が含まれていないのではないかな。

・朝学習の実施により遅刻が防止され、始業前のチャイム着席が励行されている状況を維持して欲しい。
 ・大きな交通事故の現場と類似の箇所が近隣には多くある。乱暴な自転車運転をする生徒が多いので心配である。2回注意を受けたら、自転車に乗らせない等、厳しい指導も必要である。

・低学年からの進路意識を向上させるためにも、3年生から1、2年生に向けて自分自身の体験、できれば失敗体験を語ってもらうとよいのではないかな。

・部活動の父母会等の理解を得て、参加の少ない学校行事の日に、父母会を設定するなど、協力してもらってはどうか。